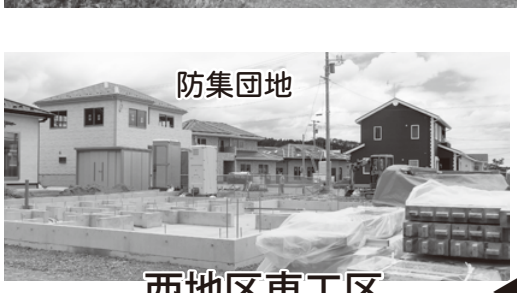
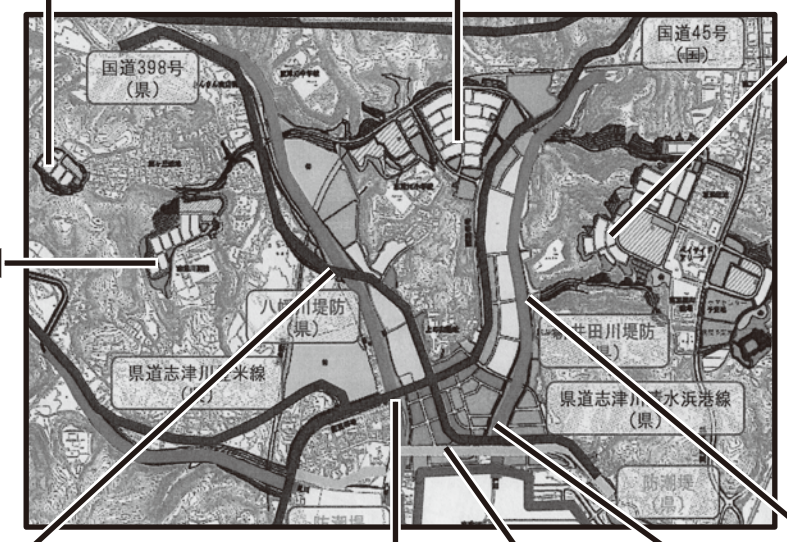
がんばろう
南三陸町
復興第 52 号

南三陸マイタウン月刊情報

発行所
千葉総合印刷株式会社
本吉郡南三陸町志津川字沼田 150-84
TEL(46) 3069 FAX(46)3068
志津川広報センター
企画・編集　千葉伸孝

志津川地区の東・中央・西地区の住宅再建加速





志津川地区の復興の現状

28 年 6 月 19 日（日）

本吉郡小学生剣道大会結果

団体戦　①道合剣道スポ少Ａ　②雄飛剣道会Ａ
個人戦　３年生以下
　①三浦櫂波（雄飛）　②安部　陽（志津川）
４年生女子
　①髙橋胡都（雄飛）　②岩石海鈴（雄飛）
６年生女子
　①三浦愛可（雄飛）　②畠山七海（道合）
４年生男子
　①阿部　旭（雄飛）　②三浦綾星（雄飛）
５年生男子
　①畠山興斗（道合）　②阿部波斗（道合）
６年生男子
　①三浦誠也（志津川）②千葉知暉（道合）

〔男女４学年以上の個人戦１位・２位は県大会へ〕

志津川剣道スポーツ少年団の活動から

今年の大会は２人の入団により、団体戦は５名で挑む事ができ、限られた練習の中で個々の力を十分に発揮できた。

３年生以下の部で安部選手　惜しくも２位に
６年生男子では三浦選手が見事に優勝！

我が団の安倍陽選手は一回戦を面の一本勝ち、2 回戦を胴の一本勝ちで、みるみる内に決勝へ勝ち進んだ。決勝は試合時間 2 分ながら、互いに有効打がなく延長戦となり勝敗が付くまでの

戦いで、その時間は 7 分以上にも達した。小学 3 年以下の戦いは、緊張感のある想像を絶する決勝戦で、雄飛剣道会の三浦選手が優勝した。我が団の安部選手も沢山の優勝のチャンスがあり、1 度 2 度と審判の旗が揚がったが、審判の有効打突としては認められなかった。色々な身体の部分を竹刀で叩かれながら、臨む戦いは観客からの暖かい視線と歓声が贈られた。二人の対戦は指導者として、互いの成長の一部分になると思った。練習でも 7 分の緊張感の中の試合は経験なく、この体験が二人をまた強くするだろう。

（志津川剣道スポ少　千葉）

「ぶたれて反省、ぶたれて感謝。」の、郡連会長の齋藤 7 段の言葉に、剣道の神髄の一部分がある。志津川剣道スポーツ少年団は「団員募集 !」しています。

「ラフター（笑）ヨガ」に参加して

NPO 法人 ハッピーライフ
NPO 法人 みらい東北（内藤）

写真は「ハスの花」の笑いヨガのポーズです。神奈川から被災地への支援の活動と言うことで、スタッフ 6 名と、志津川・歌津仮設生活者にも声を掛け、気仙沼市本吉町小泉の「公民館」を会場に、30 名の参加で、みんなで笑いヨガで体を動をした。「笑い」を取り入れ、声を出し、身体を動かし、頭を使い笑う「ラフターヨガ」を、体験した。

写真撮影と取材で参加したが、皆さんのラフターヨガから笑顔が自然と生まれた。掛け声は「ホッホー・ホホホ」「ヤッター・ヤッター・ヤッター・イェイ !」「ハ・ハ・ハ !」と、スタッフの笑顔での指導で、参加者も「笑いヨガ」の世界に浸っていった。

「グ・チョキ・パー」を使ったヨガは、互いに向かい合い特別なじゃんけんで勝った方は、手を上にして声を出し笑い、負けた方はしゃがむ。体の動きと呼吸と頭の運動があり、身体の動きだけでなく頭を使う事が、被災者で未だに仮設で暮らす高齢者には、健康に良いとのヨガ活動だった。

町の高齢者は仮設や施設で大きな笑いと運動は無く、生活に密接する笑い・集まり運動と共にゲーム的なヨガは、仮設で 6 年目を迎える高齢者には、絶対必要な事を証明してくれた。写真のハスの花のようになる頃は、互いに皆が手を繋ぎ笑いながら体を動かす事が、生活には必要な事を証明してくれた。1 時間が経ち、皆が休憩する「お茶の時間」も準備してくれた。

5 月 28 日午前 10 時本吉町小泉での教室は、中間に休憩の時間を取り入れ 2 時間、みんなで体を動かし、声を出し笑い、集まる事が、被災地に必要との活動である。

未来への教訓

復興！　大津波の記憶を風化させない

平成28年（2016年）
～ 地元報道より ～

３月の出来事

南三陸町

◇東日本大震災の５日後の大混乱の中で産声をあげた､歌津の伊藤和美（なごみ）ちゃん杏（あん）ちゃんが 16 日で、５歳を迎えた。父母と家族の愛情を受けすくすくと育っている。来春には小学校に入学する。

◇南三陸町はマイナンバー制度の個人番号で､コンビニから住民票などが交付できるようになり、導入開始を６月に早ければ開始する。各種証明書など 450 円で、窓口交付より 50 円安い。時間は午前６時 30 分から午後 11 時までとし､土日や祝日も利用できる。

◇気仙沼・本吉地区の震災で子供を亡くした親の集い「つむぎの会」が、６日気仙沼市本吉公民館で、同じ境遇の仲間が語らい、ゆっくりと前へ進もうと会が開かれた。

東日本大震災から５年、人口 23 年２月 17,666 人が､28 年２月には 13,762 人となり､仮設住宅入居者数は未だ 3,283 人がおり、約 2,400 人が退去している。死者は 566 人で不明者が 212 人となっている。気仙沼市・南三陸町の両方では、人口が１万人減少している。

◇３月 11 日の月命日の日、宮城県海上保安庁の潜水士が志津川の人工海水浴場の岩場などで不明者の捜索をおこなった。

◇南三陸町のアリーナで追悼式典がおこなわれ､1300 人が集まった。

◇歌津地区の「鎮魂の森」で、慰霊祭が営まれ､約 150 人が参列し手を合わせた。

◇南三陸町歌津の渡辺さんの愛車「トヨタカローラ・クーペ 1400SR」は、昭和 46 年のクラシッカーで東日本大震災など二度の災害を乗り越え、全国の愛好家が支援し、修復し５年後に古里に帰ってきた。

◇南三陸町では､「ふるさと納税返礼」として町のクーポン券の発行を検討している。ふるさと納税の返礼品は、これまで海産品としていたが競争の激化の中で、見直しをせまられていた。交流人口の拡大や誘客促進を図るためにも、民泊や飲食店などで利用できる。

◇南三陸町議会で、空き家調査費に計上した「600 万円」に対し、議員から「かけ過ぎ」との疑問の声が相次いだ。

◇南三陸町議会で、戸倉地区海岸をラムサール登録目指し、町が可能性や効果を調査する。国内では伊豆沼（登米・栗原両市）がある。
※ラムサール条約…貴重な動植物が生息する重要な湿地である。

◇28 年度の南三陸町の小学校児童の入学見込みは、志津川 28 人・戸倉 10 人・入谷 11 人・伊里前 18 人・名足８人となり、合計で 77 人で昨年より２人減った。中学校生徒数は、志津川 86 人・歌津 32 人で昨年より８人多い。

◇南三陸町図書館で、震災を風化させないよう､震災当時の写真などを展示した資料展を開いた。

◇南三陸町は入居者が 30％を切る見込みの仮設住宅を、７月から順次集約をする。集約予定団地は 17 団地 89 世帯を見込む。（入谷小は当初 18 戸が 28 年２月で７戸、７月には５戸への減少を見込む。波伝谷は 21 戸から２月に 14 戸になり、７月は８戸を見込む。）

南三陸署は、セブンイレブン津谷バイパス店の店長を、架空請求詐欺被害を未然に防止したと、感謝状を贈った。事件は、南三陸町内の 50 代女性へ架空メールが届き、６万円の支払いをコンビニのギフトカードで支払うように指示され、店長が多額のカード購入を､おかしいと思い支払いを思いとどまらせた。

◇JA 南三陸では南三陸ホテル観洋で「春告げやさい」の商品を PR した。地酒などの商品が続々生まれ、新年度からはセリも地元野菜として生産を進めている。

◇南三陸ホテル観洋で、全国被災地語り部シンポジュームが開催され、全国から約 280 人が参加し、震災の風化防止について考えた。

◇南三陸町は緊急時の輸送ルート確保に、病院の隣接地に「ヘリポート」を７千万円で建設する。県のドクターヘリなど、秋からの供用開始を目指す。

◇JA 南三陸では「農業の魅力を知って」と、南三陸町教育委員会に教材本を寄贈した。

◇３月議会で町は町内への観光誘致や定住促進に､県内の FM ラジオに「南三陸コーナー」として､FM 番組を制作する。製作費として 1200 万円を計上した。

◇南三陸ワカメの６回目の入札が 23 日あり、前回よりも最高のもので 1100 円高い 10k「１万 3609 円」となり、塩蔵ワカメの値上がりが続いている。

◇南三陸町戸倉に「子育て支援拠点施設」の落成式が 24 日開催された。戸倉保育所や子育て支援センター、放課後児童クラブが一体となる。周辺には昨年戸倉小が新築開校となり、災害公営住宅や、防災集団移転が整備されている。

◇三陸海岸のカキの出荷は、数量・金額ともに減少し、漁民はワカメ収穫に早期にシフトしている。

24 日南三陸町の本庁舎と歌津支所の新築工事の安全祈願祭が開催された。本庁舎は１部３階建てで延べ床面積は 3700 ㎡、支所は 1300 ㎡とし、両庁舎で総工費は 23 億 9300 万円とした。建設には国際認証材の南三陸産材をふんだんに活用し、町民の交流スペースなども配慮する。来年５月以降の供用を目指す。

◇南三陸町の被災宅地買い取り事業は、相続や抵当権に時間を要することから、当初の年度内から 10 月まで延長となった。３月 28 日までに志津川地区は 92.8％、戸倉地区は 88.7％、歌津地区は 90％となり買い取り総額は 112 億１千万円となる。

南三陸町と気仙沼市の復興の進捗と問題を比較して見れます。

気仙沼市

◆気仙沼市への 14 次復興交付額は約 88 億円となり､申請よりも２億２千万円の増額配分となった。

◆気仙沼市では高齢者の介護予防や居場所づくりを目的に、気仙沼市が始めた補助事業「高齢者交流サロン」が好評で、高齢者の生きがいづくりの役割をはたしている。

◆気仙沼市の有志６人が「震災風化を防げ！」と､被災者本人が演劇で東日本大震災の姿を発信する。３月には東京都高崎公演を実施する。

◆気仙沼の水産業者の人手不足解消へ、県気仙沼振興事務所は「気仙沼地方水産加工業人材確保連絡調整会議」を８日立ち上げた。官民一体で連携し対策を検討する。

◆気仙沼市本吉町小泉のトマト大型栽培施設「サンフレッシュ小泉農園」が､豆腐店と連携して「トマト豆腐」を開発した。小泉農園の第１弾の６次産業化の足掛かりとして、今月中旬に販売する。

◆気仙沼市は休日や深夜でも住民票などの証明書の取得へ 29 年度から「コンビニ交付」を導入する。

◆気仙沼市は行政改革の一環として、４月からゴミ収集のすべてを民間に委託する。

◆宮城県漁協唐桑支所青年部の活動が、東京での全国青年部・女性漁業者大会において、農水大臣賞を受章した。日頃の研究や実践活動の成果を発表し、唐桑小学校のカキ養殖体験の支援事業を紹介した。子供たちへ「カキを育てる喜びの実感」を感じてもらう活動が認められた。

◆気仙沼市の祈念公園の建設場所が湾内（陣山）に決定した。大震災からの復興を実感できる場所と選定された。

◆気仙沼市の一般会計予算に 826 億円が追加され、27 年度の総額は一気に 1,435 億円となった。当初予算の復興分は８割を占め、防潮堤や住宅整備の再計上分である。

◆気仙沼市立病院は、経営安定・健全化に向け､方策と長期収支計画（27 ～ 36 年度）を策定した。常勤医師の確保による医療行為の増加により、一般会計からの基準外繰り入れを 31 年度から解消する。本年度から償却削黒字を目指す。

◆気仙沼市の人口は 74,247 人（23 年２月）から､28 年２月に 66,604 人となった。死者は 1,042 人で（関連死は 108 人）不明者は 220 人となっている。

◆水産業市場水揚高は 22 年 225 億円で、震災の年（23 年）は約 85 億円から、27 年は約 212 億円まで回復した。

◆気仙沼市大島に慰霊碑が建立され、除幕式が開催された。波路上杉の下でも遺族らが慰霊碑に献花し、震災の教訓を後世へと冥福を祈った。

◆気仙沼市は、東日本大震災後の９ヵ月の取り組みを、職員から聞き取り、後世に教訓・課題の記録集を、28 年度内に完成を目指す。当時の避難所や遺体安置所などの現場対応などの証言を継承する。

◆18 才以上の選挙権制度による「模擬投票」が気仙沼高校で再現され、高校生が選挙を学んだ。

◆気仙沼市大島の子供たちを支えたいと、米海兵隊元幹部のロバート・D・エルドリッヂさん（48 才・政治学博士）が、夢と将来基金の創立をした。

◆気仙沼署は、就寝中の妻を殴ったとして、気仙沼市本郷の男性（66 才・アルバイト）を、殺人未遂で逮捕した。

◆気仙沼市の吉田造船所で初めての防衛省タンカーが 16 日横須賀に向け出港した。

◆気仙沼地方振興事務所の求職者の意識調査で､水産加工への「希望しない」が８割にものぼった。官民でのイメージアップが求められる。

◆気仙沼市の菅原市長は、気仙沼線の鉄路の復旧を断念した。JR 気仙沼線の BRT の継続を受け入れた。BRT のアクセスや振興策を評価し、「道の駅」の計画に参画を約束した。

◆首都圏のスーパー「サミット　ストア」の新商品コンクールで､「ゴロほぐし塩鮭」「尾形亀雄さんが選んだわかめ」の、気仙沼の２社が入賞した。

◆気仙沼市のマイナンバー交付は 550 件（２月末）で、申請は４千件あるもののカード制作会社の自治体との通信障害により、交付が１割にとどまっている。

◆気仙沼市内の高校生や 20 代 30 代が将来の気仙沼を考える､「気仙沼わかもの会議」が 19 日開催され、約 80 人が集まり語りあった。

◆気仙沼市の神山川の堤防の、大川の合流地点から条南中学校付近までを、県気仙沼土木事務所が堤防工事のため、桜を伐採する。近隣住民の「残してほしい」との声も。今年が見納めとなる。

◆気仙沼市唐桑町の舞根バイパスが 24 日開通し､明戸から東舞根が一つになり、住民らがパレードで祝った。

◆気仙沼市は住宅再建への太陽光発電補助を､28 年度の住宅建設の増加にともない、被災者のみを対象に今後は実施する。

◆地方創生戦略を「まち・ひと・しごと」と総合戦略を見通し、リーダー養成を人材育成に盛り込み、合計特殊出生率の目標数値にちなみ「プロジェクト１・９０」と銘打ち、子育て支援施策を充実させた。

◆気仙沼市立階上小５年生、養殖体験で加工したワカメを観光客に配布した。

◆４月１日から気仙沼港船籍の近海マグロはえ縄船８隻で、地域漁業復興プロジェクト（ポストがんばる漁業）が始まる。気仙沼港の経済の活性化を目指す。

◆気仙沼市は東日本大震災級の災害に備え、業務の在り方計画を一新する。県沖地震を想定した､前計画が今回の震災で十分に活用されなかったため。